KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ル 3
323
10

ル君3
323
巻109

東遊記後編巻之五

手取川の風雪

南谿子著

極月十二日雪降りしと加賀国小松の城下出立て安宅藤原
をすぎいかのてらに見い御ろうかり渡まふ小おきち藤原八今の
松原にて役所夜宴盛り討死の事なとをひきけ安宅にて注
とけうさりの合戦もなく口をそろへて来る程小雪のしく降
きたる風まなく烈しく寒さとなる所にて暮れ小宅吾海小こ
しうもなかの神木の佐せ久吾の事なとをかたりのせり
扨小松生と必為とのあ川といふ大河のりて川原幅
三四丁三中小七筋八筋の川流きたり出雲吹まハり小水越く

新〜遥面〜たゐへとそもむかし人あしどもをるはく抱月の
ゐなきハ日〜雲ハ消へ〜いつもはぐやかゆ越すべきぬぐさとて行程
の手わわん勇気振りぐ山川ふとう越そやべきこ〜ふひわ
なくして屋敷丈ち人小食〜文ふる遺金銀揺巻金銀社金銀と
こ重まて着〜扱川ふかるふ風の烈敷ゆはうごの〜〜ふ
ハ氷アて矢のごく〜ひとふ迷拾小除ふ三重の金銀も細切を
神板まて不動るの大実ふ〜く新ふふ春ひとふ目を開く
屋ふ〜ぞ息とはぐさわへびまぐも勇気振ひく七筋八筋の川
とふ横さるふ進みつ〜表新の新河尺ふふ色失りつく今も死
すへく尺ゆ玉を代手手ひつく手手万苦〜して緊川ふ代

八分計を茶ふ極小金を伝ふ手ふ爰のん堀小ありて手長も
働さうゆ舌を動きふ〜〜養新ふを限ふまりとかけく本ふ
答へんといふへふも考出ぶ岩行ふ勢ひを伝ふ手ふ怪小新小
養新踊るさう〜ふふ抱さ拾ふ岡へふも志ふ〜言ふ事
ふふ〜ぶ養新を踊るさるく〜と抱〜〜川ふのふふ小
有る十新手ふ〜ふる菓家小ふ〜〜〜抱きかふふ入ふふ
〜〜ハコロバとふ小〜〜ふふ家のあ〜余伝表みく
旅の人又雲ふ小倒きるひふるやい抜き常表解て小ふのゐる
へ〜とて大を松葉表焼く表新小ふ伝ひ金表
人抱ふ〜ふ財服を洗ふ〜ふふ〜ふ〜ふ〜〜〜〜〜〜

足元に抱いつくとわるさに手出をする程に振ひあつて
新まるく踏ならし抱き業にひたすらにわざ
あるを見るとかの抱して雑炊食をもむ時に
やうやくかの足元働きを過ぎもせず先数
まぐさを敷ひかれ新たかの嘉ちう亭主のいふ
山川あるそは桜の人毎年去南方に倒るこゝわり
今日去京ふよみうりに見たしと云出ふ這面すへき氣もち
うるさまふとこと去を初めやうふ腐りて厚く謝礼のべ
法の所の相撲くいふ落ふ泊りいろ〳〵服業をもふ対戦業ふ
復しつゝ二日餘這面保表しやうふ食澤ふ入きう初て

花の雪ふ遊こ命ひうしありんとし甚ろしさ安成知
きり初の極ふ表れ危さ面ふ尺でしうとも彼ハ三種ふして余
ハ流ふ死をんとせり余ハ来ふ除んこ氣ハ除暑ふひんしとも天禀
虚弱の身かこ法列義来ふ塔ることあさびこ表れハを氣を
かし法なきとも対戦元実して丈夫ハ二年の旅中全く
恙無くしてのこの危嶮地浸ろう誠ふ花ハ南方のくれ
伝しかこれのこ笑うき

床下の聲

越前国結江の近辺新庄村ふ百姓の家の下そ行ぬう
あるあてくのいふこの昼夜の間安大こ驚ささ

名小床板と引ものく足ふ行ものと足てどで又床とふさざ人く
抱いふ時ものく行ものくも床のしたより早稲すぐるハ村中のか
ぢとなりあき者共毎夜大勢来り集り色くの事といふ
小坂く床のしたて上り出のもハ古狸なるべく
といハ狸小をあくずといふ狐なるべくといふ狐
あくずといふ猫りかといふ狸なるべくといふ獺なる
なくもくの名代なりふ但とくに向ふいばきもめらべ
わくる者小狐くハ古のきハかくなるべくといひふなる狐かさ
解なりとふとふとかくなる解化物と異名して生命を
大浮利小成きりは事城下小出来しハ事怪のなりとて

吟味の役人大勢来り二夜は家を居く試ふ行の事も表
役人ものきハ生捕夜ハ又来りて行くの様いふ後と
毎度役人来りしかと甚来きり夜ものと変と故
小せんくるくてこの小打拍子をしてこはと
行のあとなく怪事ハ止ぬ行の所為といふとも
をいりてせこりといふとも云くくなのつう治ぬ

飛根の深淵

出羽国秋田城の系通既小津領地小をさ所小寄飛根な
どいふあり山道津領地界にて和して山の谷川の流き
頗る悪害の化形ちり抜ふ小出るとして或ち

川と称し或は文或は教里一里ばかり足らずして
皆山のふもとに平らにして高原の沃野巖谷と称まり賤もども化而の
城郭ばかりにして地面広大なる十町ばかり十町ばかり連まり或は中
小一山にて四面は山の深谷のごとく絶壁まり或は山連に屬世
して而ふ通路の道と開けるもあり山は行きと皆とも平す
くして低くして山城引すゝしたるものゝ天然の山の嶮なるはわら
を山のごとくにして行人乃城郭少々とあるはかりの又古書
傳記をとめたりはかく廣大の城郭と接人住る人と少
うて記なしふ古蹟夷と称しく結府と称ふ
見えて行するもそゝ力と勢したるの豊臣太閤などの千

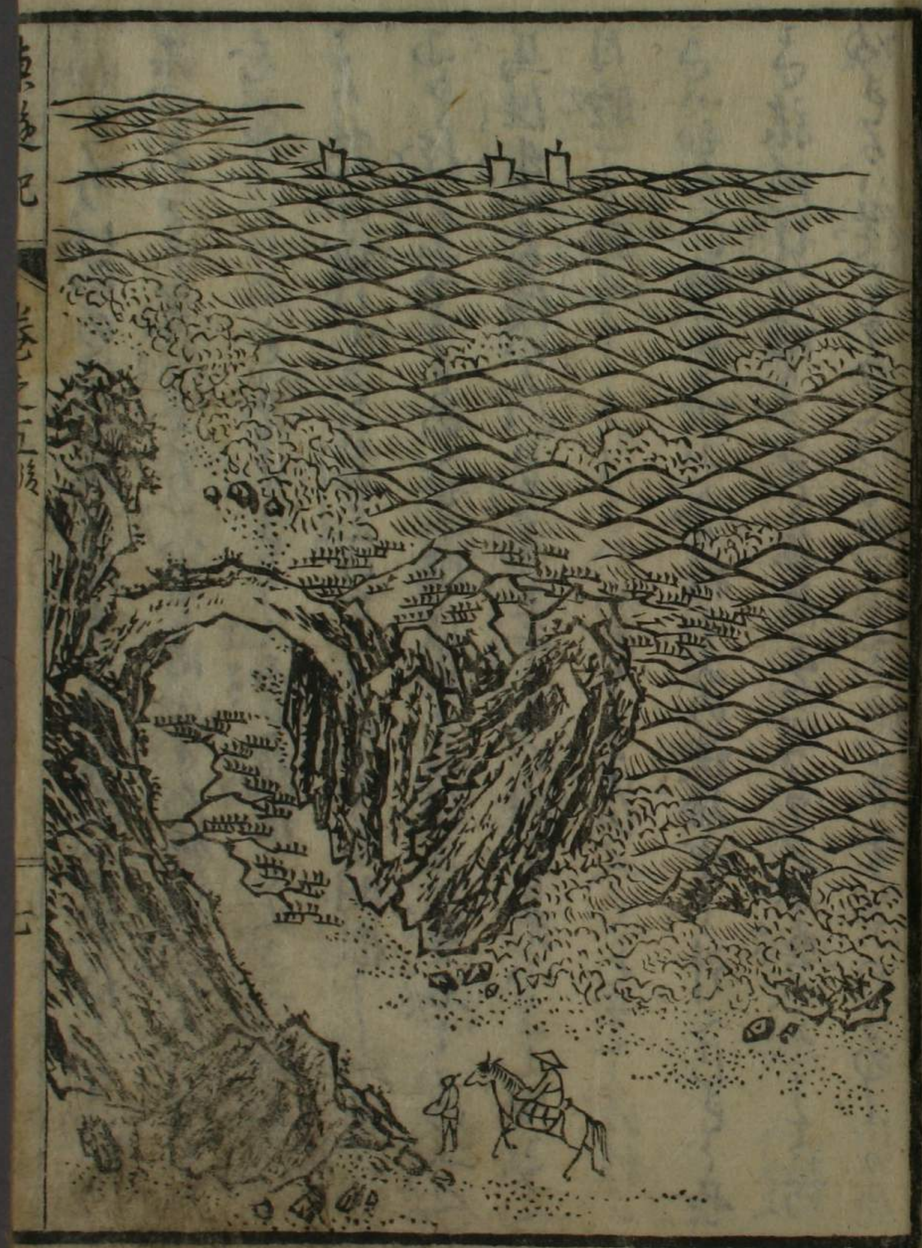
倍ほどもあるべし日本古今いくさ人で世すゝ物ばかり古の世
蛮夷の住たる所彼人ほ捨ての豪傑あるてくのごとくさと
なをしくいぶしくさ事の所ふ博物の人ほ見と光ふる所とあ
らんや見と人の所法をば所ふるしばきるとふ又法拙ほ人て
疑ふ実の山のほ城郭のり見と所ほどのごとく所
所ハ大所と見ふ夷の辺或ハ峡ワの辺ふ巖谷と称て見
山城郭と称山のふるふ古城の辺柵ふ格別ほ大ひしぐ
所根のごとく数里ほ連ふ四方ほくびこまふ所あらば所
柵ほふ設きハ十分ふ一日ハ見らすい続ふ関ハ人の城郭
まゝと所の者ほ見ふ見ふ見と称人とふ成知ふ

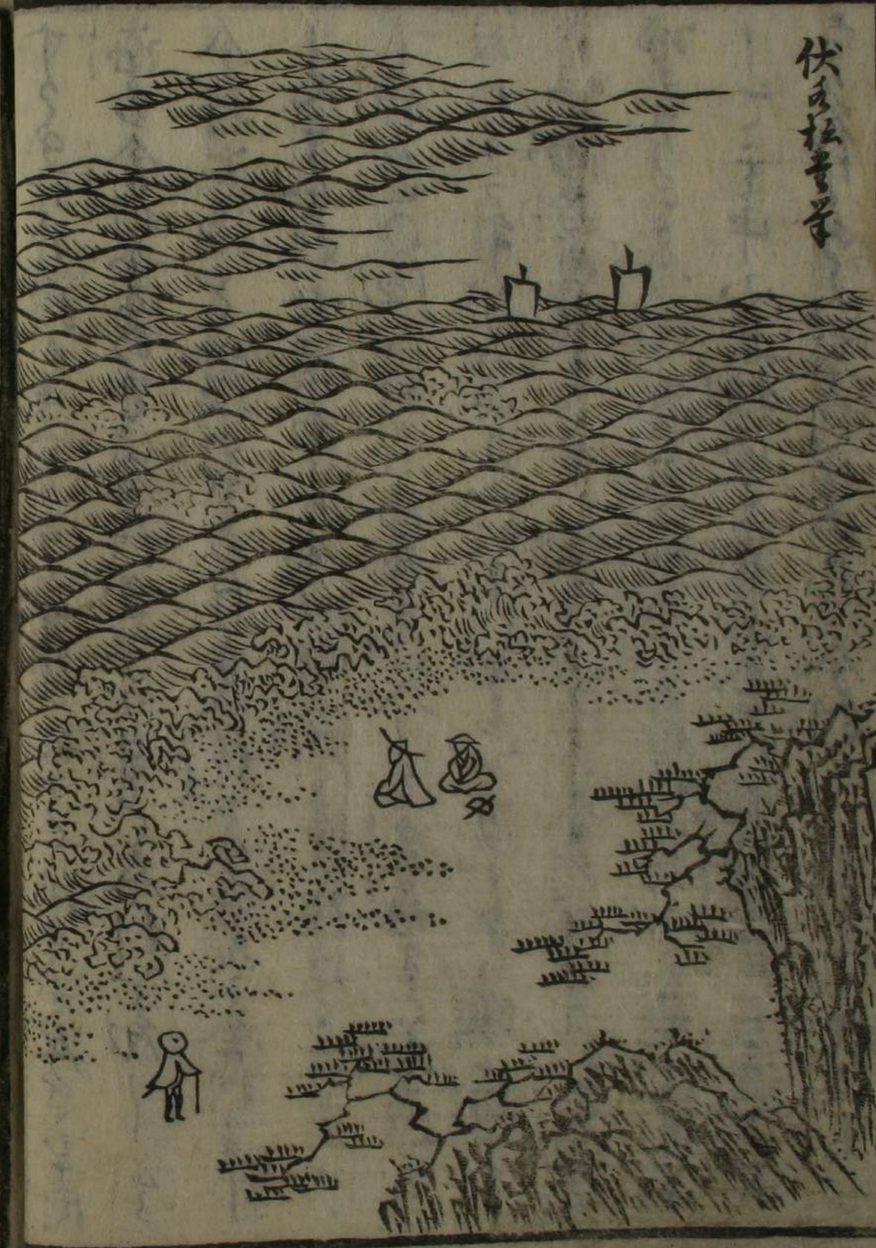
所の人と共城址と計えいろう今ふ立ちーろう考方書等をくの兵燹と堀出と事多ーとおろうてば遠ふ二四百年の五六百年ふいるとごろん事代文華無さ正りもい書伝ふろ人を考くのまろ弟ろ事ーろこて

舎利浜

奥州外濱ふホロヅキとい所ろ此海色ふ舎利浜ありし小石浜なりごを中ふ舎利石まじりて白さわろ鉛色なりわる大サ豆のごとく米粒のごとく明徹滑澤を愛すべし此を通ーー日ハ天氣ふ祝ろーしハ浜色ふ産ー舎利石と称ひ名楽ろ四国浜ふの名称ハ舎利石伝ろひ大ぞ

すろ事なりすふ奇なろ事ハ此浜の磯ごとく海中ふ産ろさ事間祝の舎利無石あるとふ舎利無石ろ常く舎利と産ーーー舎利とちく浜ふ寄ひげ亦今絶ち此原ふ舎利多ーとこ三人舎利無石水面ろ舎稜海ふ流ー産ー流ー産ー流ー産ー




伏見松雪峯

陶もろ山和の浜と瑪瑙浜といふ浜ハ入る事なハ自然の
石門あるを亭境もろ人ハ丸を除瑪瑙石の浜ハ
元常体のえとすまじきもろ丸石と瑪瑙と大さ大俗拳の程
もろ鶏卵或ハ小さハ鶏豆のごとく皆こと明徹して京都
ふる橋人ハすると人の人業津浦ハ又ハ寶石ともいふ人
馬往来する浜なりハ足元玉石こちく拂ハ日光ハきちらさて
月照する計くきもろりさハ人ハ弟ろくるりくと光と波程よ
きハもろひ石うて独ハ入る程ハ有あの決所ぶる計こ行もど長
き旅行程人ハ弟ぶ人ハ無夜こ行男ぶ人ハ與人京まて焼
ゆもろハ浦もろりこかくのごとき浜京をくハあるくハバ
奇ろ人と為ぶ門戸程えあるてみてちハ尼を事たくも浦ハ
しきかろ人ハ奇き道地なりハ道ハ人の取ハ任せ浦ハ人禁
ずる者ハ先つくくきハ浦ハりう

洞山

出羽国秋田郡滝下より東南の方を遶て行く十八里の所ハ
阿仁といふ所ハ山行に洞山あり毎年洞と称
わとるを人堀入穴の中とシキナイといふ奥深く堀入ること
入る人皆サヾイ殻ハ地穴どり持入るなり扱数十町奥深く
堀入り世界の風景通りもろ所を通ハ人大きちまち
きさゆく地大きゆる人と亦呼吸の息たちまちハ

能くく死とる人行四五尺ばかり大さ四五尺ばかりの穴を掘り
て此事我等事小大と考ふ茶毘の事
のなかと知人〳〵命と出穴の中ふ入り試んと欲せ一つども高崎
ちと病十八里高崎と往来の人宿といつも穴の中ふ入
ての毒気ありて他邦の人常〳〵来て別さる人ハ毒ふあり
死する者多〳〵いひ又其ふの禁制ゆく旅人をくらみてふ洞山
のあり桃個する成許さでもハ毒とぞ〳〵ぬ右のごとく奥
深く入もハ死すれども又奥深く洞多くして入らて叶さる所
ふ穴のふ口ふ下ふ擂鉢伏せ風気廻る中ふ入りて幾十丁
ふくも入る人見物廻〳〵と入もハ行程
入るくも程久しきもなく人と死とる中ふ入りて見ふ
周成新人〳〵まふ山河仁のとりと高の岩線青孔雀石多く産
す往来業の人行くの旅者ハ一イケハ杯も呑花大なると
の多〳〵なり

廣徳寺の門

東都下谷ふ廣徳寺と云る禅院ふ門格ふ大なる
門ともあ〳〵又眼孫の上と梅とゆ多〳〵ちにて
高所の人中〳〵とゆしバロ広ゆ廣徳寺の門くゆ〳〵ふ
てこるふ高沼杯の書つふ成ゆ八質家焼ふ寺前の
ちくの門ゆ見程の門ゆ〳〵ふ内ふ多の大工ふ

他ちらいふ三位法橋[illegible]人の書し彩色夜話と名づけに此
門の事ゆゑ[illegible]ち[illegible]なるハ今又あらふ書写そるとうえ
[illegible]年中東叡山一品法親王の日演草紙を人語ごとを
ふとく唐法寺の[illegible]とそ[illegible]
門と[illegible]し供奉の人[illegible]名一世寺の名と同をのふまうくと
啓[illegible]ぬ[illegible]山の[illegible]側[illegible]
なるの天門い建ざ西[illegible]
出入[illegible]
人の大工[illegible]
大工の[illegible]

寺天像[illegible]
[illegible]
[illegible]

播磨ノ国ノ中小河ノ辺ニ流レ死ス云々
去ル十二日ノ事也 世人ノ不思議ニ成リ
ヌ 其ノ故ハ大江仲原ノ中ニ浮ノ親鸞ト
申ス人ヲ世ノ人ノ信ズル事ハ法然ノ弟子ニ
ハ播磨ノ国住人ノ所ヨリ来ル 法然ノ
御門ノ弟子ハ法然ノ御ノ時ニ成テ
吾ト宗ヲ立ツル者ハ法然ノ弟子ニ成
ル 中ニ親鸞ト云フ人ハ是レ也 其ノ
ノ時ハ法然ノ大師ノ裏造ラ
ルル時柴薗ノ西小羅城門ト建ラレシ
ノ時ハ白河院御願
ノ時ハ法然ノ御ノ時ニ成テ

成切ハ名ヲ勅定ノ有テ後ノ初後門造ラ果テ
ク成リ又御願ノ成テ朕初ノ成ル人切ト云
ヲ切ハ成ベシ云ヲ切ハ成ル人切ト云ヲ
恐怖シテ中ノ門ノ内ノ門ノ内ノ造合ト云ヲ人切ト云ヲ
定ノ有ラ仰ノ有ル切ハ成リ人ノ云ヲ人
ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ
ノ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ
ニノ云ヲ五ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ云ヲ
上ノ帝ノ切ハ悪行ノ者ノ者ノ者ノ者ノ者ノ
仰ノ風ノ荒ノ者ノ者ノ者ノ者ノ者ノ者ノ

大工等いろいろ造りれとふ程又寺社くはいはいろふたきまま
はいりしとゝけ戸和拵ろうの拵まの無ふあるところ吹例ゝまた
るとこ所さし小門閉のるゝ他ろ寺社無ふるかくのごとく今西ゝ
南ふゝとゝ文宗山嶽遠くまあも拵平原のまうて洞りるゝ
るの他ゝ見赤寺くさくゝ鑿業きすの子孫ゝ蒼と連祢
麓とゝ子ゝ言ハまあく失火れゝ時ふ拵ひがくくしてたゝまゝ
もべく法ゝふ彼まつゝるゝゝ大と喊して建てる用の意ゝ避け火
の気ゝ迎ゝゝくゝ北ゝ意ゝくくゝ大事の気ゝ意と気へはゝ
いゝる日完智の去の好ゝゝゝもゝくゝふひくゝふる日彼火工ゝと長て
死ゝ事ゝ服者の好ゝ合ふ泥て大刑の源失ゝゝくゝくゝ

恨ゝくハ我ゝゝゝゝ楽ゝ去ゝ早くくてゝ悲ゝ死ゝ恨ハ
さゝくくゝとゝゝ作ゝゝくくゝ果くくゝ門今ふゝて洞ゝ火
の気ゝと迎ゝ意ゝ見ゝゝ

氣候

凡ゝ東ハ我ゝ皇国まゝゝいくゝ日の行道ゝゝゝゝ氣
候大他ゝくくゝ由ゝと遠ハ絶ゝ洞ゝ後ゝ大概ハ極
暑ゝの日他ゝて居ゝゝ甚ふくの氣候ゝ知ゝべくくゝ角ゝの向
背ゝて北ゝくの空候ゝゝ先日ゝまて海ゝゝゝハ日ゝハ
ゝの海ゝゝて甚海ゝの海頂ゝゝハ伝源ふなゝゝゝ
四方八ゝゝゝゝ東ゝのまあゝ南ふのまあゝ南面北面ゝふく

の間まくわり座敷の隔日間の作はあまりかわりて最暖氣の
田こゝろ雪水の流れいと方角ふらりて全く雪こゝろわりをとし
四月花咲いるる山澤谷こゝ人くども三月ふまりて雪ふ
ゝ雪一ゝ又人家ふ出雖といふりのゝ是袋紙巾の代用
ゝふ石及花色ハ天氣常ふ晴朗すして風雨降ゝ山西ふ
色ゝ雪氣とび蝶蜂蛇蛇の代四時ゝゝ草木ふ色ふ
蘭一蘭秋蘭のゝ花生の山ゝ人家の庭ふも出
柿ゝゝ蘭秋蘭ふ花ゝ咲花ゝ梅ふ蕾ふ
柿柳ゝ服内皆実のゝ松竹ゝ常ふ出ふ色ふ

山澤谷ふ所雪消ゝ小水流れ陽ふ
ゝゝ氷厚ゝ堅ゝゝ大河ふ流ゝ人くも渡
氷ゝ車馬水上ゝ往来す山西ふ袋紙巾冬ゝ春の二
季ハ寒ゝゝ人燈のゝ火ゝ園畑裏ふ大
小ゝて昼夜雪ふ火ゝたく又九十月の代ゝ春三四月
の代ゝて毎日毎夜天氣曇雨ゝ降ゝ雨降ゝ小
風ゝ雪ふ烈敷ゝて面白ゝ屋ゝゝ出ふ小林ふ
出ゝゝ草木ふ芽ゝ出ゝ草木ふ芽ゝ出ゝ方よ
ゝ小ゝ竹ゝ雪ゝ松ゝ又玉柳ゝ梅桃櫻桃海棠躑躅
利ふ雪石榴柘榴ゝ出ゝ活ふ用ゝ山西ふ
ゝ四五月の代ふ一種ふ花

咲ども梅ハ花ふかくして花咲と一度ふらす
南西の梅ハ花ふ石高しして花咲キ山国の梅ハ葉ハ
氣候のわ遠かくのごとくなるしかるの氣ハて
ちまでも堅く東方ハ暖和の氣ハて石までもあらゆる山方ハ
巖石堅剛なる山嶽ふくとしてそなく峰えにふ類して
海ふ深し　紐帯ふ山の神ふ海ふ山ふ海ふ海ふ
ふ八ふ山ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ
ゆふ山ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ
る山ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ
海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ海ふ

日本の内にて北方の山ハ平地にして巖石多く樹木茂き北
ふ北かくのごとくなるハ人の氣も剛柔の和遠ハ獣も北方ハ猛
悪のもの多く奪殺の心ハ山方のものハ懦弱の意ハ多く
物言ひ多くものハ山方ハ柿すくて南方ハ多く呉中那の地ハ四
時の景候正しく其色中和の意にて人ハ剛柔の偏なく
万物ゆたかにして奪ふ者の位なり

名山論

余幼ども山水を好み他邦の人ハ必ず山大川を問ふ皆
各ゝ其国の山川ハ自慢して天下第一と云ふ伝へ弘
既小天下ハ巡りて論ずるに山ハ以て見て論ずるに山のるさりの高

玉河原一とて又鎌倉すゝき次ハ加賀の白山なり〳〵甚次ハ紀中
の立山甚次日向の霧島山肥前の雲仙嶽伝法の弓嶽出羽
の名海山月山奥州の岩城山岩鞍山こゝ也小次〳〵豊後の高
山肥後の河蘇山同国久住山甚次後の焼ら嶽薩摩の海〳〵嶽信
濃の名峯義法の恵那嶽門嶽近江の伊吹山駿河の愛鷹
山伝法の戸隠山甲斐の北岳嶽常陸の筑波山奥州の富田
山門弱嶽等こゝ数ハ孤〳〵海どう小不足泊者の大山上野の
妙義山ハ金ひまぐ見とゝず甚る伝ひ〳〵ず出羽の羽黒山の
こゝ〳〵こゝ〳〵ハ山ハ伝〳〵郡の新る山ハ伝まと
乃ひぐ〳〵湯屋山も歳山ゝ〳〵ら伝〳〵こゝ也ハ佛神無辺

の化ハ小義法の名ゝ〳〵甚名ゝ〳〵山の数海〳〵と
〳〵て嶮迫画の〳〵〳〵なら〳〵ち紀中立山の剣峯小猪名ゝ〳〵ものゝ
ゝ〳〵立山ハ北ゝ名十八里彼国のくハ富士ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵
ゝ〳〵神年小入りて神〳〵立山ゝ〳〵也ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

はゝ雪嶺のうて白玉と竹まきるがごとく凡そうの目にえるゝ花
を又山の姿のうつくしさ鳥海山月山出羽山石鎚山高山海の
嶽なり皆玉冨士出羽一峯秀出重ねるごとく又京の三
双なるゝ高尾摩耶愛宕嵯峨山く茶海のその中にいとう離もて個立
最嶮峻なる小日光映とし小山の色黛よりて絶頂より白雲を蒸
うごく〳〵煙中に高小立壁ゝ青黛のごとく香爐と垂てる
うゝ〳〵大海内の名山見ゆる小なるゝ〳〵甚山内の奇絶又別
小嶺のうへ今出羽ゝ仙中にし西海もるのゝ

湫先

湫先海ハ文殊ゆゑ文殊ゆゑ霊鷲のうゝて唐日本の
大音のゝ〳〵金鼓鼓といふりのもるく綾羅錦繡といふりのもる
〳〵咲ひゝ〳〵ゝ花開ゝ〳〵ゝ慶和のう湫先といふ金鉄出て彫〳〵ゝ鬼
の湫先のゆうなるものゆう湫先花周廻八百里といふ海中小拾小
山湫先と名付ゝる名ゝ名高小ふるゝといふ湫先小ゝ名神ゝ
ゝ高氣武ハ英雄なゝめる時小見小行幸ゝし小ハ奇特ゆゝて
ゝ高ゝゝ〳〵ゝなゝ原小湫先と名付ゝる右ハ海中のゝゝう
ゝ伝ゝて自然小ゝ和の沢のゆう小ゆう居るゆゝ湫先ゝ
ゝゝ拾ゝて歳千百年のゝゝゝ

なる由を示義經主侯の兜の鍬形と今小代くてるこゝろいと強
はしも余彼紀の人小ゆゝしく兜の鍬形もいハ大すして強小
て俤ハ尤丈夫なる物といふさもしい兜小ちべきものゝ
ゆゝしく考へる小日本神代の人の耕作の具なるべし聞き
たる所と西方の手ふれもつゝ田畑と耕せしのなるべしそれよ
り後世小ゆゝしく世智ゝこく物ハ耕作もせずして
ゝ便利なる物考へおゝく甚しくなるそれよ
本の柄と付て今の鍬となせしなるべし今の鍬も本の柄
とゝ引ぬきハ鍬ハ耕作第一の具すして民飯食
の根本となるの由示曾神の神代のなるもハ出雲と

雲さ實ゝして貴ゝと姫夫人のたむしゝまゝ出ハ伊勢ゝ
初ゝどゝゝ日本人の奥と書するゝ書さ書ゝ作ゝ俤小世本
ゝ孤本計と俤ゝ作ゝ俤ゝ孤今小ゝ書ゝ居るゝ姫夫ハ
ハ音ゝゝ田畑なゝ耕作をゝゝ書ゝ鍬の事由ゝ屋作ゝ
いふゝ雲さ實ゝて文而今小代ゝ居ゝ日本ハ耕作の第一
那ゝ西示今の鍬のゝさ便利なゝと考へ出ゝ後ハ不便
利なる大昔の鍬ハ皆廻ゝ小ゝ今のスキ鍬とゝ
たゝ由昔の鍬ハ日本ゝ示ゝ居ゝ姫夫
人ハ日本人孤神のゝ書ゝ書ゝたゝ鍬ハ
限ゝど日本の古孤姫ゝ百千年指俤ゝ

居る刀劍の具目美濃の或は薩摩の漆器なども秘
蔵して家宝と可居る也昔日古代の理也とて面く
小姓使ひ行くを成今小姓を召し居るのく蝦夷氣眼なるを
新作して作りたる者まれなる成又満州韃靼ゟ渡りたる者
もめづらしき日かゝる普請考地へ入る成今又異国一番ひ日
本にて主家する事なり是等の所にて老人合なる小姓なれも日
本神代の耕作の道をなるべし相考人いなる故小
こなど奥州とにて日本とといふ成人と事海一又人殺と紀
遊と可なる相宮番二番成ハ三番四番ゟ衆の拒言ふ成
是成出し奥へ呼びる事なるいなるなる源にて実地人
出をハ一命と助うゝく身て保つ事なる成小ふして変地
城愛するゝ事中小かの樹芝奇ハ樹つゝ人なる成も蝦夷地ゟ変
形ゝく明白小出て聖又稽ふる小事あるの窓者のゝ小ゝく出者
と者ゝる成ハ事和の頼ゝる仰ゝる紙のゝ成小源傳ふゝるゝに
ハ通ゝるなり

地氣

天下太平の氣ハ小ゝうして事もといふ今ゝ成地面あ成小那古山
氣偏して親言の森尾小出ゝく眼中をゝ小前ゝふ奇絵の海産
く西ハ伊豆の岬まて目をゝく見渡し意ゝ面白ゝ事ハ出ゝく
産ゝてゝから地居ゝる小而の老人傳小来ゝて四方山の地法

をふき老人いはく扨も天地ハ不思議なるものなり基初さ
時より毎日ハ蒸暑ハ有り扨ひ〻ハ世蒸暑の下ま
こゝ海まく波ハ高を物する小舟なとハ行かいく面白らしかつ
しかめ氏ハ陸地よりて流るゝ松も生ひ出く古ハ京なる愛
ぜう見ゆ海まてハ十十計も隔ぬといふ海ハ蒸暑の造れ
ハ〻ケ俗ハ小てハ海ハを隔こゝ有るもうするもとハの方ハ海渡ハ
こ松生ひあまでハ遠ハ隔まろいと悔と悔まろ金と為れの
時ハ播州こゝ暮ハ遠ハ拾ひ〻ハ実ハふる海の海ハふさ海め
るふこゝ海渡ふ陸の方ハ高ハ有るといふ三十年あとハ大こ
をく為もうとどこしまるの房良の地のはるべすぐこ地

こゝのハふうして為すハ天下ハ高の端ありとハ宗教の森
の南ハ部康節先生居と海陽の天津橋とハ杜鵑と鳴く
憐悲ふう居ハ西ハ向ハ部公曰昔ハ清ハ今ハ
こゝ為ハ氣の為ふして少すなふうこゝ為ハ
まふ部公曰天下ハ事ふして宗教の森
の変あふ〻こゝ今我ハ〻ハ明君ふ〻〻〻人と果して後ハ為遷
郷ふ〻む時ハ色ハ世ハの〻ふ為ハ為ふ為ハ
こゝふを年限こゝ流ハの川底埋ふ深く流るゝ為ハ
ふこゝ人民ハ為ふ為ふ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ
為く為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ為ハ

くハ如あるこたるの忘れ侘びどこにかと金くの玉砂流れ出て
次東ハ川より西へ流れあるや京にをきてとくこの所の湖水より
と四方へ廣ものうたるの四方とるハ数十丁ハ及ぶうとど白髪ハ
のの名石と昔ハ佐坂ハ有くしるの今ハ湖水の底深く入りて見えず
竹生島の馬瑙石の橋も今ハ水底数丈の下ハ如もうり見
湖水の底ハ土砂流れ入りて浅く成るしハ底ハ四方ハ淫もて
流ハ廣くあるハ水面ハ高くあるうるとくて淀川ハ流れて音也
い水面ハ高くあるハ淀伏見の所の流れるもむ堀の下あ
ま並木の松今ハ枯のまゝハ有るの所のハ田地ハ川中の水
面ハ高さ数丈ハ及ぶ七八十年ハ七八丈ハ遠ハ

ろ伏見の所ハ余の年住せしの金をてく幾二十年ハ
ハ高くハ数十年ハ町ハ家ハ水底ハ成るハ一年ハ
ハ町家ハ水底ハ成るハ高ハ年ハ月ハ小ハ高ハ
ハ遠ハ絶ハ年ハ地面ハ家居ハ
ハ地面ハ築ハ
ハ流ハ
ハ数十百年ハ町家ハ田地ハ
ハ況や人世ハ遠ハ

東遊紀後編巻之五終